

水
乙
卯
年
五
月
廿
五
日

御
香
印

崇徳帝ハ鳥羽第一の御子諱ハ顯仁保安四年
五歳ノ時即位ス鳥羽上皇其子体仁を愛
するの余故を以て帝を廢し体仁を立て
帝を讃岐ニ流シ帝憤懣配所ニ在り常
懐々として樂に都人達如入道之を慨き其時憂
不慮に帝ノ負へ讃岐ニ到り守護の人ニ就
きて帝ノ其志を感慕といへども熱々の
相見を憂へ増へり八宮見事には若し只波濤然
とて建知居て自ら詠を朝々お木丸のひきき君に
まききかたはらそとに帝之を返ししつらふやうに
みえりし御をまらまの音のそとに道如都を返

大日本史略圖會

第七十六代
崇徳天皇

大
菴
湯
冨

大
菴
湯
冨

渡辺彫采

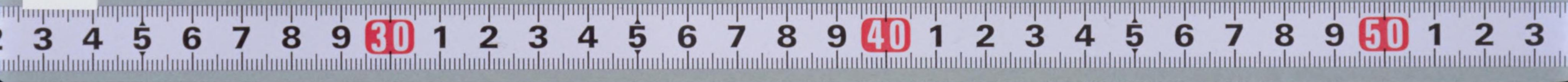
大
菴
湯
冨

蓮
如
入
道



国立国会図書館

あづまにしきゑ 2帖 本別15-22 02- 062 裏





永
藏
方

崇
徳
帝

あづまにしきゑ 2帖 本別15-22 02- 063 裏

国立国会図書館



新藏
水野奉方
己卯



明治十三年 月 日御届
丸屋町五番地 通三丁目三番地
画工 月岡米次郎 出板人 小林欽次郎

あづまにしきゑ 2帖 本別15-22 02- 064 裏

国立国会図書館

